2026年10月28日
学長記者懇談会

沖縄刑務所と
琉球大学法科大学院の
コラボレーションによる
性の多様性の尊重をテーマにした
刑務作業製品（日本初）完成！

琉球大学大学院法務研究科
（法科大学院）
担当　矢野　恵美･齋藤　実

沖縄刑務所×琉球大学法科大学院
覚書の締結
（2026年3月18日）



覚書の内容

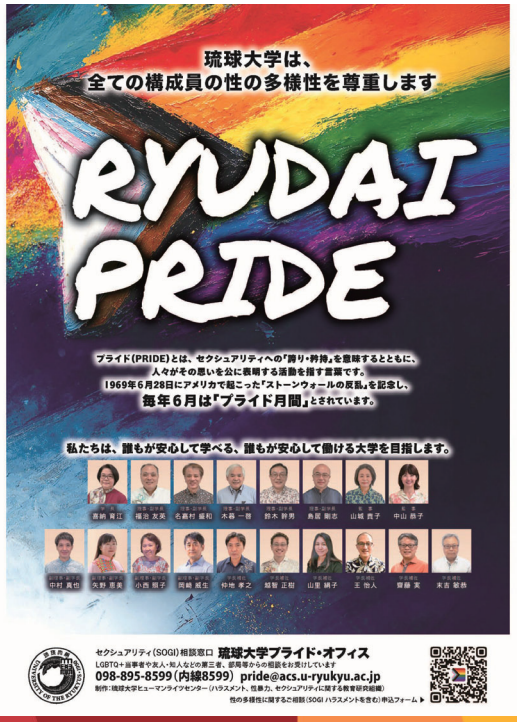
① 琉大生のアイディアを活かした刑務作業製品の制作

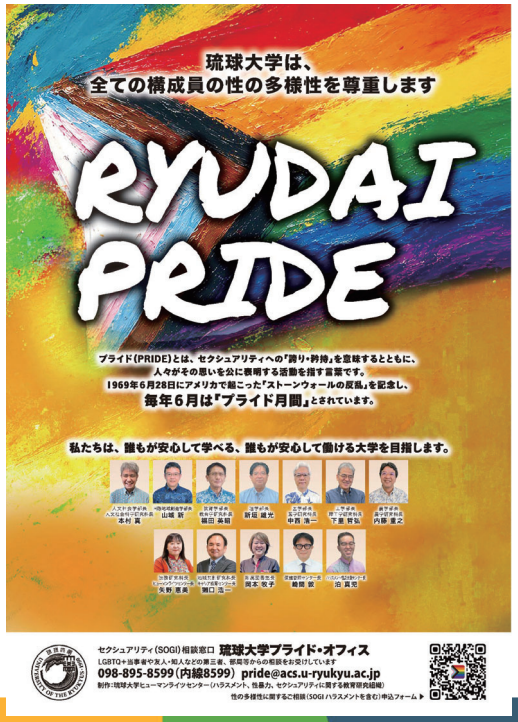
② 受刑者への無料法律相談の提供

③ 障がいをもつ受刑者へのプログラムの作成

①琉大生のアイディアを活かした刑務作業製品の制作

私達の思い：
琉大らしさを活かしながら
人権に関するメッセージを製品にのせたい





琉球大学

世界でも類を見ない大学執行部、部局長が顔をそろえた性の多様性尊重のポスターを作成



琉球大学法科大学院

日本で唯一「性の多様性の尊重」を宣言しているロースクール

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
LAW SCHOOL OKINAWA

①琉大生のアイディアを活かした刑務作業製品の制作

私達の思い：
琉大らしさを活かしながら
人権に関するメッセージを製品にのせたい

全国初の試み！！

性の多様性の尊重をきっかけに
様々な人の人権を考えてもらう
製品を作ろう！！

第1回ミーティング（5月19日）



第1回ミーティング
（5月19日）
刑務所×琉大　お互いを知る



第2回ミーティング（5月19日）
刑務作業製品の意義について学ぶ



7月7日　ゼミ

改めて琉大生が
性の多様性の尊重について
学ぶ

第3回ミーティング（7月14日）
製品のアイディアに関する
思いを語るプレゼン大会



第4回ミーティング（7月22日）
思いを製品化する方法を学ぶ



7月29日　学長記者懇談会
沖縄刑務所×琉球大学法科大学院
コラボレーションの紹介



8月19日　沖縄タイムス



沖縄刑務所製品 学生がアイデア

琉大法科大学院コラボ

琉球大学法科大学院と沖縄刑務所が連携し、学生のアイデアを生かした刑務所作業製品を開発している。中央＝や沖縄刑務所の中村峰顕総務部長＝同左から2人目＝らが7月29日に発表した。製品をきっかけに性の多様性の尊重や受刑者の社会復帰について社会に知ってもらう一方、刑務所関係者にも性の多様性や人権について考えてほしいと説明。矢野教授は「人権の尊重、地域貢献となるコラボを積極的に行いたい」と意欲を示した。

連携は琉大側から提案。今年3月に両者で覚書を締結し、ミーティングを重ねている。矢野教授によると大学と刑務所のコラボによるテーマの作業製品開発や、受刑者向けの無料法律相談の提供は全国で初めて。

沖縄刑務所の中村部長は連携の理由として「刑務所作業を通して地域社会とのつながりを深められる」と話し、「刑務所や矯正行政についても社会の理解を進めたい」と意気込んだ。

同大学院法務研究科長の矢野恵美教授＝写真最前列作業製品を開発している。中央＝や沖縄刑務所の中村峰顕総務部長＝同左から2人目＝らが7月29日に発表した。製品をきっかけに性の多様性の尊重や受刑者の社会復帰について社会に知ってもらう一方、刑務所関係者にも性の多様性や人権について考えてほしいと説明。矢野教授は「人権の尊重、地域貢献となるコラボを積極的に行いたい」と意欲を示した。

連携は琉大側から提案。今年3月に両者で覚書を締結し、ミーティングを重ねている。矢野教授によると大学と刑務所のコラボによるテーマの作業製品開発や、受刑者向けの無料法律相談の提供は全国で初めて。

沖縄刑務所の中村部長は連携の理由として「刑務所作業を通して地域社会とのつながりを深められる」と話し、「刑務所や矯正行政についても社会の理解を進めたい」と意気込んだ。

サコッシュやキーホルダーには紅型のデザインを取り入れる方針で、今年12月会学部4年の呉屋帆香さん（21）は「自分は考えない受刑者の生活を想像してもらうきっかけになるのではないか。受刑者の更生を社会全体で支えられる環境づくりに貢献したい」と話した。（社会部・又吉嘉例）

運動部コスト 年8万4千円

全国中高生らを調査

連携に関する琉大人文社会学部4年の呉屋帆香さん（21）は「自分は考えない受刑者の生活を想像してもらうきっかけになるのではないか。受刑者の更生を社会全体で支えられる環境づくりに貢献したい」と話した。（社会部・又吉嘉例）

運動部で活動する中高生が1年間に負担する用具購入費などの費用は平均8万4千円で、保護者の65％がネットで実施。運動部は文化部の約2倍の費用がかかっていた。

ビス「ANYTEAM」の調査で明らかになった。文化部の平均を大きく上回り、競技による負担額の差もみられた。調査は6月、全国の部活動に所属する中高生2214人と保護者300人、顧問100人を対象に

[紙面編集・松田興平]

込みは気づくもの

ネットショッピングでトートバッグを購入した。届いた箱を開けて思わず「小さい！」と叫んだ。画面で見たイメージの4分の1ほどの大きさ。財布と携帯電話を入れたら、もういっぱいっぱい。その様子を見た夫に「サイズは確認したの？」と聞かれ、私は返事に詰まった。私の中で「トートバッグ」はA4サイズの書類も化粧ポーチもお弁当も、どさっと入る大きなものだと思い込んでいたのだ。だから、サイズの表記を見るという発想すらなかった。

思い込みは誰もが持っている。自分で気づかない無意識なものや、周囲との関係性に影響する場合もある。人は自分の物事の捉え方を基準に他者とコミュニケーションを取ることが多い。無表情な人を「無愛想

8月31日　琉球新報



刑務作業で社会とつながる

沖縄刑務所と琉大法科大学院 連携

「性の多様性」テーマに製品開発



多様性、理解へ連携

琉球大学法科大学院と沖縄刑務所が、多様性への理解促進を目的とした取り組みを進めている。第1弾は、性の多様性の尊重を象徴するレインボーカラーを用いた製品を共同開発する企画。

▶19面に詳報

第5回ミーティング（8月20日）

刑務作業製品の検討もいよいよ大詰めに





第6回ミーティング（10月6日）

ついにアイディアが完成！！



最終の確認完了！
（10月8日）



日本初となる「性の多様性の尊重」（＝人権尊重）というメッセージを乗せた刑務作業製品を受刑者に作成してもらうことの意義

社会に向けて

- 「性の多様性の尊重」について知ってほしい
- こういう製品を作ってくれる刑務所、受刑者がいることを知ってほしい
- 「人権尊重」のメッセージをのせた本製品をきっかけに刑務所についても知ってほしい
- 「人権尊重」のメッセージをのせた本製品をきっかけに受刑者の社会復帰についても知ってほしい

刑務所に向けて

- 社会にも、受刑者にも、職員にも様々なセクシュアリティの人がいることを知ってほしい
- 「性の多様性の尊重」を通じて、自分達を含む様々な人の人権について思いをはせてほしい（被害者の人権についても考えて欲しい）

サコッシュ

南獄×琉球大学
ダブルネームタグ（革）
＋
レインボータグ（紅型）



キーケース



販売予定

11月22日（日）ピンクドット沖縄
@てんぶす前広場

12月12日（土）・13日（日）矯正展
@沖縄刑務所

是非、ご来場の上、お手に取ってみてください

沖縄刑務所×琉球大学法科大学院
性の多様性の尊重をテーマとした刑務作業製品の完成（日本初）

↓

今後も人権を尊重し、地域貢献を行っていきます

連絡先　矢野恵美（emiyano@cs.u-ryukyu.ac.jp）